

## 授業概要

道徳教育は、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、生徒の道徳性を育成することをねらいとするものである。道徳教育の理論と歴史、諸外国における道徳教育にも触れながら、新学習指導要領の目玉でもある「特別の教科 道徳」の授業実践の基礎を学ぶとともに、学習指導案の作成も行っていく。

## 授業計画

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション（道徳とは、道徳教育の定義）     |
| 第2回  | 道徳教育の歴史                     |
| 第3回  | 「道徳科」の授業論                   |
| 第4回  | 諸外国における道徳教育                 |
| 第5回  | 学校教育全体で行う道徳教育               |
| 第6回  | 「特別の教科 道徳」の総論               |
| 第7回  | 「特別の教科 道徳」の目標               |
| 第8回  | 「特別の教科 道徳」の内容               |
| 第9回  | 「特別の教科 道徳」の方法               |
| 第10回 | 「特別の教科 道徳」の計画               |
| 第11回 | 「特別の教科 道徳」の評価               |
| 第12回 | 学習指導過程と学習指導案                |
| 第13回 | 学習指導案の作成①「主として自分自身に関すること」   |
| 第14回 | 学習指導案の作成②「主として人との関わりに関すること」 |
| 第15回 | ふり返りとまとめ                    |
| 第16回 | 最終課題（レポート）                  |

## 到達目標

- 本授業の到達目標は、次の3点である。
1. 道徳教育の歴史的変遷や学校現場における実践例から道徳教育の在り方を学び、その意義を考える。
  2. 新学習指導要領の目玉である「特別の教科 道徳」について目標、内容、方法を中心に学ぶ。
  3. 資料を読み込み、学習指導案を作成するなど、実践的な授業に触れる。

## 履修上の注意

授業は、講義形式を基本とするが、講義時、受講者に意見や発表を求めることが多い。また、「特別の教科 道徳」の学習指導案の作成なども体験的に学ばせていく。

毎回、レジュメや資料を用意するが、使用するテキストを事前に熟読しておくことが望ましい。

出席については、毎回の授業の最初に呼名する。この時点で間に合わなければ遅刻扱いとする。

## 予習復習

予習として、各回の講義の終末に、次回のテーマに関し問うことがある。それまでの講義をふまえながら、自分なりの回答を用意し次回に臨むこと。復習は、理解が難しい部分について、当該回以外にも質問の時間を設けるので、まとめておくことが望ましい。

## 評価方法

講義における参加貢献度及び受講態度 30%、授業内に課す課題及び指導案発表 40%、および最終課題（レポート） 30%の結果を総合的に判断する。

## テキスト

- 『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹他 教育出版  
平成28年2月（ISBN978-4-316-80432-3）
- 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月』文部科学省  
教育出版 平成30年4月（ISBN978-4-316-30084-9）

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

この授業では、学校における道徳教育の在り方を学ぶために特別の教科である道徳科の目標・内容、一般的な「道徳教育」との違い、道徳科の具体的な指導方法、教材の特性などを中心に学習する。これらの学びを通して教育現場で通用する実践的な指導に関する基礎・基本の習得を図りたい。

特に、国立教育政策研究所の研究指定校であった公立学校での実務経験をもとに、道徳と他の教科や教科外の領域との関連的指導、地域社会との連携などを図る「道徳的実践活動」に関する学習も重視したい。また、学習指導案の作成や模擬授業を実施し道徳指導の具体的実践に接する機会も設定する。

## 授業計画

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション             |
| 第 2 回  | 道徳の意義・目的・内容と学習指導要領    |
| 第 3 回  | 道徳指導の歴史・沿革            |
| 第 4 回  | 道徳的実践活動における関連的指導と地域連携 |
| 第 5 回  | 低学年道徳指導の特性            |
| 第 6 回  | 中学年道徳指導の特性            |
| 第 7 回  | 高学年道徳指導の特性            |
| 第 8 回  | 中学校道徳指導の特性            |
| 第 9 回  | 道徳教育の年間指導計画・全体計画      |
| 第 10 回 | 道徳科学習指導案の基本的考え方       |
| 第 11 回 | 道徳科の学習指導案の作成（指導観）     |
| 第 12 回 | 道徳科の学習指導案の作成（本時の展開）   |
| 第 13 回 | 道徳の模擬授業               |
| 第 14 回 | 授業反省会                 |
| 第 15 回 | 学習のまとめ                |
| 第 16 回 | 筆記試験                  |

## 到達目標

1. 道徳科の目的、意義、内容、沿革などに関する基本的な考え方を理解し説明している（知識・理解）。
2. 道徳指導の現状や課題をふまえながら、小論文や口頭で表現している（思考・表現）。
3. 道徳指導に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとする（意欲・態度）。

## 履修上の注意

単位修得のためには、最低でも 10 回の完全な出席（無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。  
また、授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験（第 16 回目）は、「小論文」形式で出題する。

## 予習・復習

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

## 評価方法

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 10%、レポート 10%、受講態度 10%

## テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の書籍も活用してほしい。  
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編』、出版社廣済堂あかつき